

「ボランティア元年」から20年 ～民間連携・官民連携の歩み

東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)代表世話人
震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)代表
災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P)幹事
全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)準備会暫定代表
愛知県被災者支援センター長
東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごや運営委員

認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード代表理事
栗田暢之

1995年「阪神・淡路大震災」

- ◆137万人のボランティア
- ◆「ボランティア元年」
- ◆受け入れ体制の未整備



1998年「北関東・南東北豪雨災害(那須水害)」

- ◆全国初のボランティアセンター設置
- ◆地元主体の協働型
- ◆泥かきだけではなく、クリスマスまで支援



2004年「台風10個上陸・新潟県中越地震」

- ◆全国で70余の災害ボランティアセンター
- ◆「福祉救援」から「協働型」へ
- ◆内閣府が検討会を設置



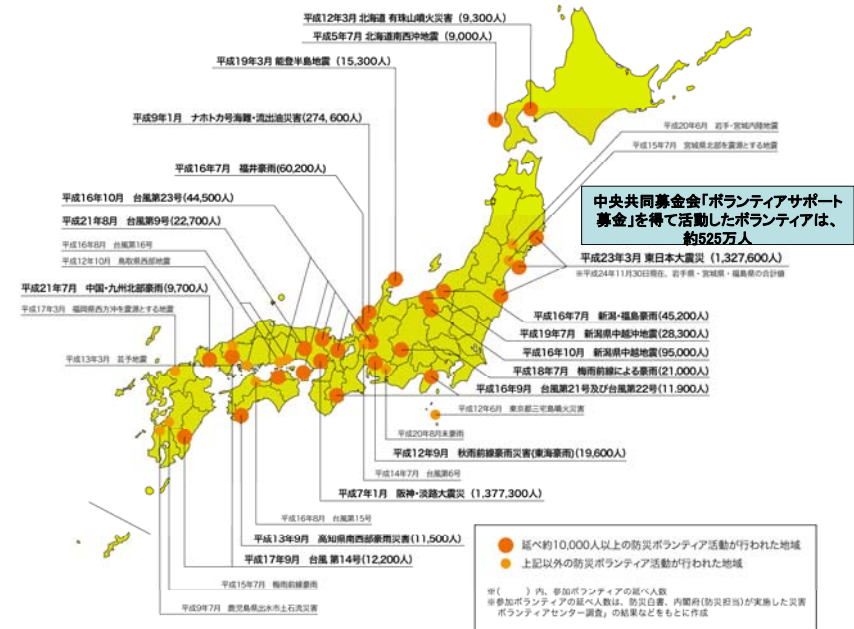
2011年「東日本大震災」

- ◆戦後最悪の大惨事
- ◆災害ボランティアセンターの限界
- ◆長期にわたる復興

全国はもとより
世界各地から
「がんばろう！東日本」



近年の防災ボランティア活動の被災地でのあゆみ



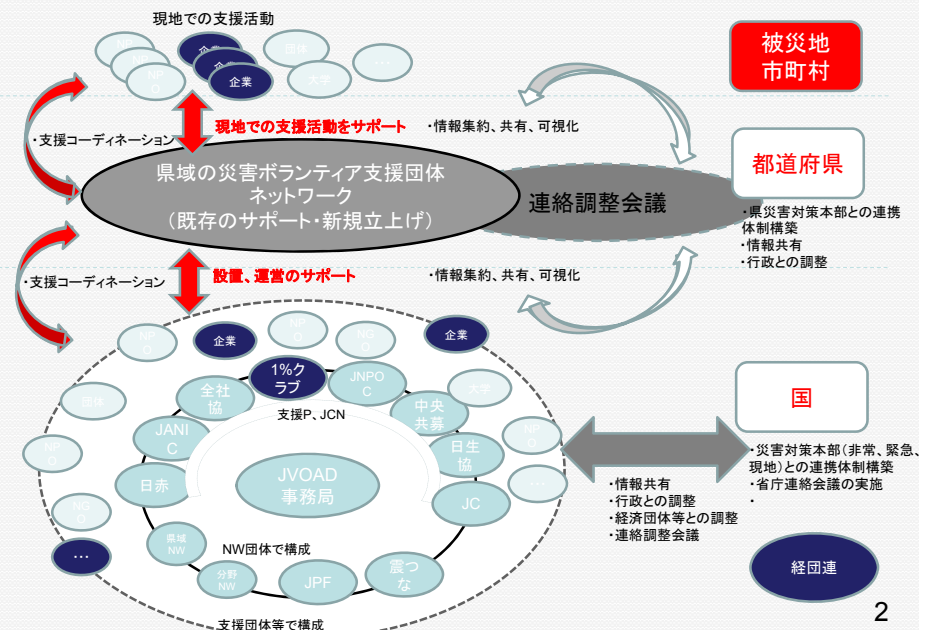
東日本大震災の課題

- ・市民セクターによる支援活動が「ばらばら」
- ・国や被災都道府県との関係が「その場凌ぎ」
- ・企業との連携は「濃淡が顕著、その場限り」
- ・社協ボラセンは「パンク状態」

全体を俯瞰したコーディネート機能が不足

セクター間の連携を充実させ、多様性を認め合いながら、支援の「漏れ・抜け・落ち・ムラ」をなくす！

JVOADの災害対応構想イメージ(案)



JVOAD準備会参加団体

(五十音順)

- 国際協力NGOセンター(JANIC)
- 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P)
- ジャパン・プラットフォーム(JPF)
- 震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)
- チーム中越
- 東京災害ボランティアネットワーク(東災ボ)
- 日本青年会議所(JC)
- 日本NPOセンター(JNPOC)

2015年1月現在

2015年「関東・東北豪雨」

◆水害による「広域災害」

◆常総市災害支援情報共有会議

(茨城県・県社協・常総市・市社協・地元NPO・外部支援者の6者による定期的な協議の場の設置・内閣府も参加)

◆NPO連絡会議(約70団体の参加)

(茨城NPOセンター・コモンズに参集し連日情報交換)

行政・社協・NPOの協働
内閣府水害対策WGでの議題
栃木・宮城をつなぐライン不足



JVOADいよいよ始動へ



- 2月12～13日・全国初の「全国フォーラム」開催
- 国・都道府県・市町村、各社協、日赤、生協、JC、企業、NPO・NGO、研究機関等333名超の参加
- 3月中にNPO法人申請(予定)
- 都道府県ごとの説明行脚、研修・訓練参画、分科会の設置、全国フォーラムの定例化など
- 緊急時はボラセンと協力し合い、市民セクターの中間支援組織として機能させたい。